朝鮮半島の和平プロセスを支持する共同声明

　2018年6月13日から18日に香港・嶺南大学で開催された第5回サウス・サウスフォーラムの参加者として、私たちはアメリカ合衆国と朝鮮民主主義人民共和国の首脳会談および朝鮮戦争と朝鮮半島における冷戦体制の終結に資する南北間の和平プロセスを支持する。朝鮮半島には冷戦が残存しており、それはこれまで浪費的な軍事支出というかたちで、私たちの生活や財産に巨大な負担を強いてきた。1950年にはじまった朝鮮戦争は、不安定な休戦協定のもとに依然継続している。昨年、とりわけ朝鮮半島およびその周辺諸国の人びとは、最終的に第三次世界大戦の勃発に至るかもしれない戦争の切迫した可能性に恐怖しなければならなかった。私たちはいかなるかたちの戦争にも反対する。なぜなら、核技術の発展した現代における戦争は、あらゆる生命体にとって破滅的な結果をもたらすからである。この戦争に勝者はおらず、代わりにすべての当事者のみならず、生態系をも荒廃させるだろう。

　今年、想像できなかったような和平プロセスへの進展が朝鮮半島で生じた。南北間の対話と交流が平昌冬季五輪を契機に復活したのである。南北の首脳が4月27日に板門店で会談して板門店宣言を発表し、南北両国双方が互いに対する敵対的行為をやめ、朝鮮戦争の終結へと向かい、さまざまなレベルと地域での交流を拡大し、朝鮮半島の完全な非核化を目指して段階的な軍縮を進めることを確認した。

　アメリカのトランプ大統領と北朝鮮の金正恩委員長の歴史的な首脳会談が、6月12日にシンガポールで行われた。両首脳は、最終的な朝鮮半島の非核化へ向けての取り組みの開始および北朝鮮の体制保証を宣言した。この二者会談は和平プロセスにとって画期的なものである。なぜなら、アメリカと北朝鮮は70年にわたって敵対関係にあり続けてきたからである。平和への意志および両首脳の相互信頼が確認された。こうしたかたちで和平プロセスはすでにはじまっている。北朝鮮は核爆弾および長距離ミサイルの実験を昨年11月から中止しており、今年5月には自発的に核実験場を爆破した。さらに北朝鮮は、同国で拘束されていたアメリカ市民3名を5月に解放した。トランプ大統領もまた、北朝鮮に深刻な脅威を与えていた米韓共同軍事演習の中止を発表した。

　私たちは、平和を愛するグローバル市民として、朝鮮半島において進行中の和平プロセスを断固支持し、この稀有な和平プロセスを妨害し、中傷し、無効化しようとするいかなる動きにも反対する。これは、この地域の市民が平和を勝ちとるための真に稀有で貴重な機会である。私たちは、戦争ではなく平和だけが人々の生活の本当の包括的な安全保障になりうると確信する。

　私たちは、こうした歓迎すべき展開の一切が、キャンドル運動をきっかけに生じたことを銘記しておく。それは長年にわたって平和を求めてきた、女性運動を中心とする市民の闘いの一部である。

　私たちは、朝鮮半島における和平プロセスを固く支持する。私たちは、グローバル市民として、連帯のネットワークを構築、拡大し、南北間および米朝間の交渉を後押しするだろう。

　私たちは、関係当事者間の交渉が早急に妥結し、この地域の人びとが安全と繁栄と人権を享受できるようになることを望んでいる。

　私たちは、グローバル社会の平和を愛する市民として、法、制度、文化、教育の体系に深く埋め込まれてきた冷戦体制の遺産を取り除き、根絶するために努力する。

　私たちは、とりわけ東アジア諸国の知識人たちに、私たちの連帯運動に参加し、東アジアに非核地帯をつくりだす第一歩を踏み出し、戦争が蔓延る世界の他地域にそれを拡大していくことを呼びかける。

2018円6月18日

嶺南大学・香港